社会福祉法人 黒松内つくし園70周年
福祉型障がい児入所施設 しりべし学園60周年

記念事業






感謝花火大会

九月十二日に感謝花火大会が開催されました。利用者さんは夕食にカレーを食べその後、焼き鳥等の軽食を楽しみました。最後にしりべし学園から花火を眺め楽しい一日を過ごしました。

看板製作



夏休みに60周年記念の看板を利用者さんと一緒に作成しました。今後も成長を見守ってくれることでしょう。



法人職員交流会

９月12日にしりべし学園特設会場で職員交流会が開かれました。法人内の職員が約140名集まり、抽選会などが開かれ会場は大盛り上がりでした。

しりべし学園・しりべし学園成人寮ロゴマーク

まわりの松の葉は黒松内の地域をあらわし、地域の中にある「S」の字は、しりべし学園の頭文字をあらわす。はばたく鳩は平和の象として描かれたものである。　作：亀水 啓樹氏

表紙写真　左：黒松内町の満開のそば畑　右：しりべし学園桜公園の桜と黒松内岳
編　集　しりべし学園・しりべし学園成人寮　広報委員会





しりべし学園６０周年特別記念号

祝 しりべし学園創立60(周年)を迎えて

社会福祉法人　黒松内つくし園
福祉型障がい児入所施設　しりべし学園
施設長　冨樫　孝貴

向寒の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当施設の運営に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、当施設は本年を持ちまして、創立六十周年という大きな節目の年を迎えることができました。一九六六年の開設以来、昭和、平成、令和と激動の時代の中で、一歩一歩確かな歩みを進めてこられましたのは、温かく支えてくださった地域の皆様、深いご理解を寄せてくださるご家族の皆様、多大なるご支援をいただき続けている関係機関の皆様、そして、並々ならぬご苦労を重ね、時代ごとの制度の変遷を乗り越えてこられた歴代の職員の皆様ならびに、日夜、子ども達の命と生活を守り、日々の支援にあたってくれている現職員の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

この六十年間、障害児施設を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。しかし、時代がどのように変わろうとも、私たちが最も大切にするのは、「子ども達一人一人の個性を尊び、その可能性を信じ育み、安心して笑顔で暮らせる場所を守り続ける」ことです。日々の生活や活動の中で見せる子どもたちの無邪気な笑顔や、小さな「できた！」を積み重ね、豊かに成長していく姿は、私たち職員にとって最高の喜びであり、大きな原動力となります。この夏、子ども達に「踏まれても、折られても、まっすぐ伸びるつくしのように逞しく、笑顔で明るく元気な太陽のように、歩みはゆっくりでも、歩幅は一人一人違っても、一歩一歩成長し、みんな、みんな、自分色の素敵な花を咲かせよう」そして、職員はそのために「子ども達としっかり向き合って、寄り添って、その子らしさを大切にするのだ」と話しながら、一緒にお絵かきをして、出来た看板は高校生に花壇に立てかけてもらいました。福祉の現場は、決して平坦な道ばかりではありません。日々変化する子ども達の心身の状況に寄り添い、時に悩みながらも「より良い支援とは何か」を追求し続けてくれている職員の努力こそが、この施設が積み重ねてきた六十年の歴史の「今」を支える一番の原動力です。

当施設がこれまで積み重ねてきた歴史の重みを胸に刻み、これからも子ども達が安心して自分らしく過ごせる場所であり続けると同時に、地域の皆様、ご家族の皆様に信頼していただけるよう、単なる「入所施設」に留まらず、成人期を見据えた確かな支援の構築や、地域社会と子どもたちをつなぐ架け橋としての役割を果たしていけるよう、変化を恐れず、また、原点を忘れず職員一同、より一層の情熱と責任感を持って、真摯に子ども達と向き合ってまいります。

結びに、今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸、そして、子ども達の輝かしい未来を祈念致しまして、創立六十周年のご挨拶とさせていただきます。

写真と新聞記事で振り返る「しりべし学園の60年」

～思い出の１枚で振り返るしりべし学園～



創立15周年記念（昭和56年8月1日）



24時間テレビに出演



ふれあいまつり



ふれあい運動会



ふれあい盆踊り



(九ちゃん追悼)
学園和太鼓クラブSTV9.9ふれあいコンサート出演



大鳥神社祭（黒松内駅前にて）



創立初期のあいご会報



（社福）黒松内つくし園元理事長
第4代施設長　廣瀬清藏氏
1990年～2003年



旧園舎（昭和58年ごろ）



しりべし学園は昭和41年8月に定員40名で開設し今年で60周年を迎えました。
法人全体では昭和31年に児童養護施設を開設し、70年わたる長い歴史を歩んでまいりました。
今号では、「しりべし学園」の60年にわたる歴史を写真、新聞記事などで振り返ります。

●簡易年表●

1966年	しりべし学園開設
1970年	重度指定施設に認定される
1975年	園誌「いっしょうけんめい やっているんだ」発行（1981年、1988年にも発行）
1986年	黒松内つくし寮を新築
1992年	南後志母子通園センター運営委託事業開始
1998年	地域療育センター事業開始
2003年	老朽改築工事を自己資金で行う
2006年	法人創立50周年記念誌発行
2012年	知的障がい児入所施設から福祉型障がい児入所施設に移行
2026年	創立60周年を迎える

しりべし学園旧園舎

～過去の新聞記事から～



北海道新聞

ふれあい祭りにぎわう

黒松内で町福祉大会

昭和60年（1985年）7月9日（火曜日）

大勢の町民でにぎわったふれあい祭り

園生と町民が交流

しりべし学園 ガラクタ市や演芸

【黒松内】町社会福祉協議会主催の第八回町福祉大会が七日、農業者トレーニングセンターで開かれ、福祉に貢献した町民らを表彰した。また同日、精薄児（者）施設「しりべし学園」（広瀬智子園長、九十九人）でも第十九回ふれあい祭りが開かれ、大勢訪れた一般町民と園生たちと交流を深めていた。

福祉大会は表彰に、ふれあい祭りとは同じ日に行われていたが、同祭をご覧になりながら一日に開くことになった。

会場には町内の福祉関係者ら約百四十人が出席、横川町長が三会長表彰を行い、広瀬会長が四団体二十七人に感謝状を贈呈した。

この後、横川町長が「豊多年を重ね、人間同士がかかわり合いの多い生活の生活のうえの不用品バザーや、国鉄黒松内駅のSTL、青函連絡船の写真パネル展も開かれ、人気を集めていた。

そのほか福祉芸術祭では、園生たちの「ふれあい太鼓」や「踊り多加しげのカラオケ大会などと盛りだくさんの内容で楽しみながらふれあいを深めていた。

北海タイムス



昭和62年（1987年）3月25日（水曜日）
北海タイムス

盛大に20周年を祝う

園生5人のはたちも祝福

黒松内のしりべし学園

【黒松内】精薄児（者）施設「しりべし学園」（広瀬博子園長）創立二十周年記念式典と成人式が二十二日、町民総合センターで行われた。

同園は、昭和四十一年養護施設「黒松内つくし園」の古い住なとを利用して自己資金で建設、定員四十人で許可をとり同年八月スタートした。四十三年には、園内遊戯場を建て、国庫補助で五百九十平方を増築し定員を七十人に。四十八年一月、さらに四百二十八平方を増築し、定員九十人、つくし寮を開設している。

この日の式典に参加したのは、園生六十九人、園児二十人、来賓父母合せ二百八十人、同園の父母らつくる「あおぞら会」の武知二三夫会長から祝いの言葉があり、十年、二十年の勤務者らに感謝状と記念品を贈呈。また、広瀬園長のお礼の言葉の後、来賓代表作業班連絡会の井沢勇教育長、山田藤次郎町議会議長、広瀬清蔵社会福祉法人黒松内つくし園理事長から祝辞をおのおの述べられた。

この後、同園主催の成人式が行われ、園児の和太鼓、踊りなどがあり、和子さん、若松明美さんの大人への仲間入りも祝福された。

しりべし学園の20周年記念式典と成人式